

株式会社ダイフク <6383>
2021年3月期
(2020年4月1日 ~ 2021年3月31日)

決算説明資料

2021年5月11日



業績ハイライト p. 2

業績見通し p. 15

中期経営計画について p. 20

目次へ

業績ハイライト



2021年3月期概況（連結）

（億円）

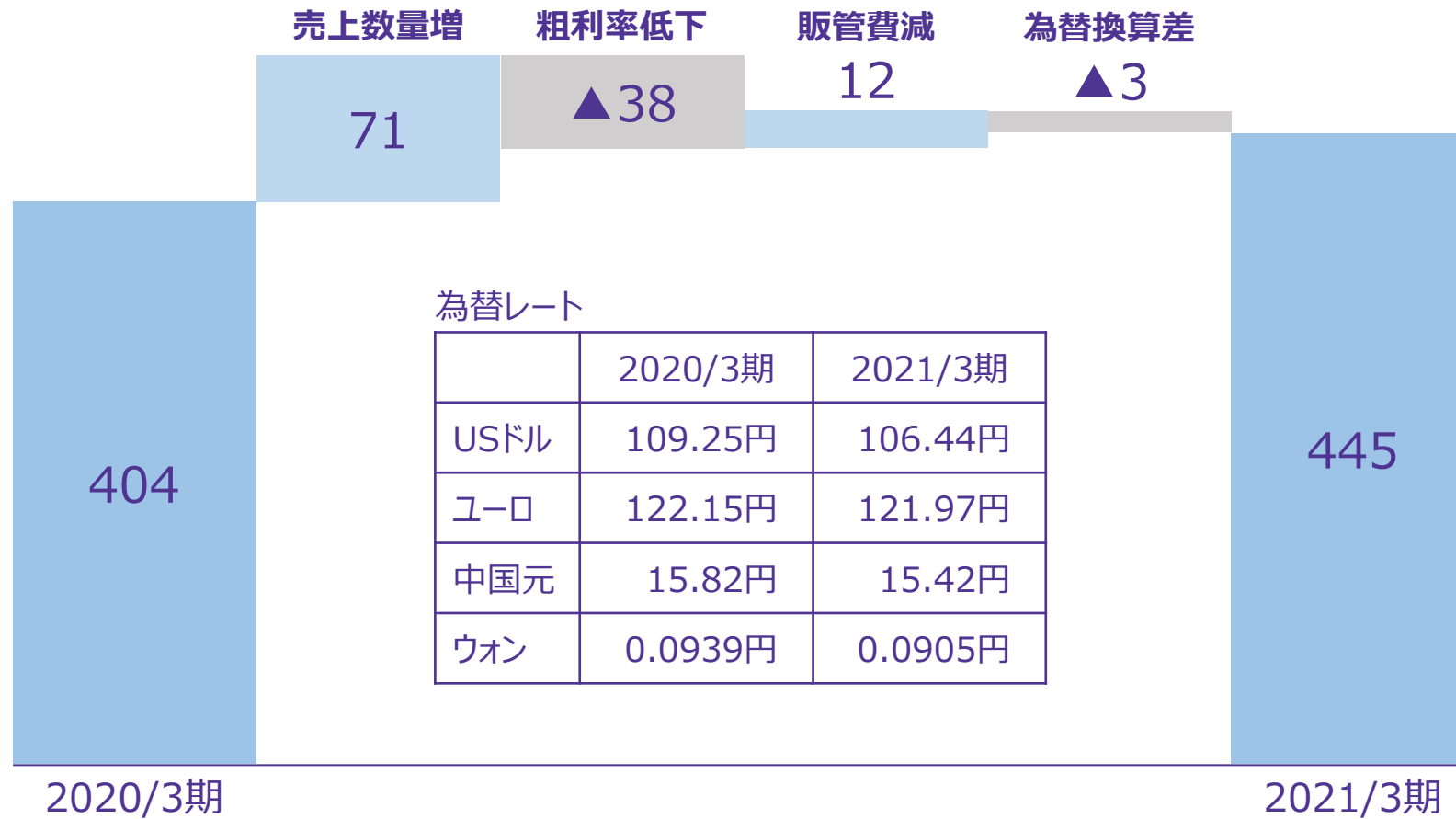
	2020/3期	2021/3期 期初計画	2021/3期	対前年 増減額	対前年 増減率	対期初計画 達成率
受注高	4,831	4,800	4,510	▲321	▲6.6%	94.0%
売上高	4,436	4,600	4,739	+302	+6.8%	103.0%
営業利益	404	410	445	+40	+10.0%	108.7%
経常利益	409	418	458	+48	+11.9%	109.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	280	290	323	+43	+15.4%	111.7%
包括利益	256	—	333	+77	+30.1%	—
1株当たり当期純利益	222.96円	—	257.13円	+34.17円		

✓ 新型コロナウイルス感染症による移動
や出社制限で商談の遅延などが影響

✓ 増収・増益を達成し、売上高は過去
最高を記録

(億円)

(参考) 為替換算差
売上高: ▲66億円



(億円)

	受注高 (外部顧客からの受注高)			売上高 (外部顧客への売上高)			セグメント利益 (親会社株主に帰属する四半期純利益)		
	2020/3期	2021/3期	増減額	2020/3期	2021/3期	増減額	2020/3期	2021/3期	増減額
ダイフク	2,183	1,841	▲342	2,044	1,993	▲50	186	260	+73
コンテック	168	153	▲14	163	162	▲1	16	11	▲4
DNAHC _{※1}	1,367	1,194	▲173	1,022	1,371	+348	62	60	▲2
CFI _{※2}	238	310	+72	326	305	▲21	25	27	+2
その他	874	1,010	+136	939	896	▲43	25	23	▲2
連結調整等	-	-	-	▲60	9	+70	▲36	▲59	▲23
合計 (調整後)	4,831	4,510	▲321	4,436	4,739	+302	280	323	+43

✓ **ダイフク :**
受注は自動車生産ライン向け、半導体・液晶生産ライン向けが伸び悩み、利益は一般製造業・流通業向けが寄与

✓ **DNAHC :**
前期に自動車生産ライン向けの大型案件を受注、今期に売上を計上

✓ **CFI :**
データセンター用の半導体需要増がけん引

※1 **DNAHC** = Daifuku North America Holding Company

※2 **CFI** = Clean Factomation, Inc.

(億円)

	2020/3期	2021/3期	増減額
流動資産	3,196	3,506	+309
現金及び預金	709	941	+232
売上債権	2,027	2,119	+91
たな卸資産	333	342	+8
その他	127	102	▲24
固定資産	912	948	+36
有形固定資産	473	495	+22
無形固定資産	101	100	▲1
のれん	48	42	▲6
その他	52	58	+5
投資その他の資産	337	352	+15
資産合計	4,108	4,454	+345

	2020/3期	2021/3期	増減額
流動負債	1,386	1,491	+104
仕入債務	690	629	▲61
短期借入金	117	155	+37
その他	578	707	+128
固定負債	348	342	▲5
長期借入金	216	196	▲20
その他	131	146	+14
負債合計	1,735	1,834	+99
株主資本	2,317	2,552	+235
資本金	318	318	-
利益剰余金	1,792	2,023	+230
その他	205	210	+4
その他の包括利益累計額	12	17	+5
非支配株主持分	43	49	+5
純資産合計	2,373	2,620	+246
負債純資産合計	4,108	4,454	+345

✓ 総資産：345億円増
 (主な要因)
 増加：現金及び預金 232億円
 売上債権 91億円

✓ 負債：99億円増
 (主な要因)
 増加：未払法人税等 73億円

✓ 純資産：246億円増
 (主な要因)
 増加：利益剰余金 230億円

連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2020/3期	2021/3期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	137	382	+245
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲147	▲66	+81
フリー・キャッシュ・フロー	▲10	315	+326
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲183	▲83	+99
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲5	▲7	▲1
現金及び現金同等物の増減額	▲200	224	+424
現金及び現金同等物の期首残高	909	708	▲200
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	—	7	+7
現金及び現金同等物の期末残高	708	940	+231

✓ 営業CF : 382億円収入超過

(主な要因)

税金等調整前当期純利益 451億円

売上債権の増加 ▲106億円

✓ 投資CF : 66億円支出超過

(主な要因)

固定資産の取得による支出 ▲74億円

✓ 財務CF : 83億円支出超過

(主な要因)

短期借入金の借入 17億円

配当金の支払額 ▲94億円

(億円)

業種	受注高					売上高				
	2020/3期		2021/3期		増減額	2020/3期		2021/3期		増減額
	受注高	構成比	受注高	構成比		売上高	構成比	売上高	構成比	
自動車および自動車部品	899	18.6%	490	10.9%	▲408	684	15.4%	801	16.9%	+116
エレクトロニクス	1,462	30.3%	1,295	28.7%	▲166	1,441	32.5%	1,370	28.9%	▲71
商業および小売業	945	19.6%	1,363	30.2%	+417	862	19.4%	1,155	24.4%	+292
運輸・倉庫	274	5.7%	233	5.2%	▲41	285	6.4%	235	5.0%	▲49
機械	111	2.3%	120	2.7%	+9	135	3.1%	112	2.4%	▲22
化学・薬品	184	3.8%	139	3.1%	▲45	153	3.4%	183	3.9%	+30
食品	170	3.5%	173	3.8%	+2	131	3.0%	177	3.7%	+45
鉄鋼・非鉄金属	54	1.1%	37	0.8%	▲17	53	1.2%	44	0.9%	▲9
精密機器・印刷・事務機	76	1.6%	61	1.4%	▲15	114	2.6%	87	1.8%	▲27
空港	476	9.9%	460	10.2%	▲16	419	9.5%	412	8.7%	▲7
その他	175	3.6%	133	3.0%	▲41	153	3.5%	158	3.4%	+4
合計	4,831	100.0%	4,510	100.0%	▲321	4,436	100.0%	4,739	100.0%	+302

✓ 自動車および自動車部品：
前期に北米で大型案件を受注、今期に売上を計上

✓ 商業および小売業：
eコマース関連がけん引

(億円)

地域	国名	2018/3期		2019/3期		2020/3期		2021/3期		
		受注高	構成比	受注高	構成比	受注高	構成比	受注高	構成比	対前年増減額
日本		1,453	29.8%	1,740	34.6%	1,700	35.2%	1,525	33.8%	▲175
海外		3,425	70.2%	3,293	65.4%	3,131	64.8%	2,985	66.2%	▲145
	北米	1,071	22.0%	1,110	22.0%	1,405	29.1%	1,205	26.7%	▲200
	アジア	2,073	42.5%	1,822	36.2%	1,521	31.5%	1,446	32.1%	▲75
	中国	1,159	23.8%	889	17.7%	583	12.1%	552	12.2%	▲31
	台湾	126	2.6%	276	5.5%	424	8.8%	340	7.6%	▲84
	韓国	648	13.3%	501	10.0%	392	8.1%	450	10.0%	+58
	その他	138	2.8%	154	3.0%	120	2.5%	103	2.3%	▲17
	欧州	109	2.2%	142	2.8%	94	2.0%	162	3.6%	+67
	中南米	79	1.6%	94	1.9%	9	0.2%	26	0.6%	+16
	その他	91	1.9%	124	2.5%	99	2.0%	145	3.2%	+45
合計		4,879	100.0%	5,033	100.0%	4,831	100.0%	4,510	100.0%	▲321

✓ 日本
前期に受注した空港向け大型案件の反動減、および自動車生産ライン向けの伸び悩みの影響

✓ 北米
前期に受注した自動車生産ライン向け大型案件の反動減

仕向地別売上高

(億円)

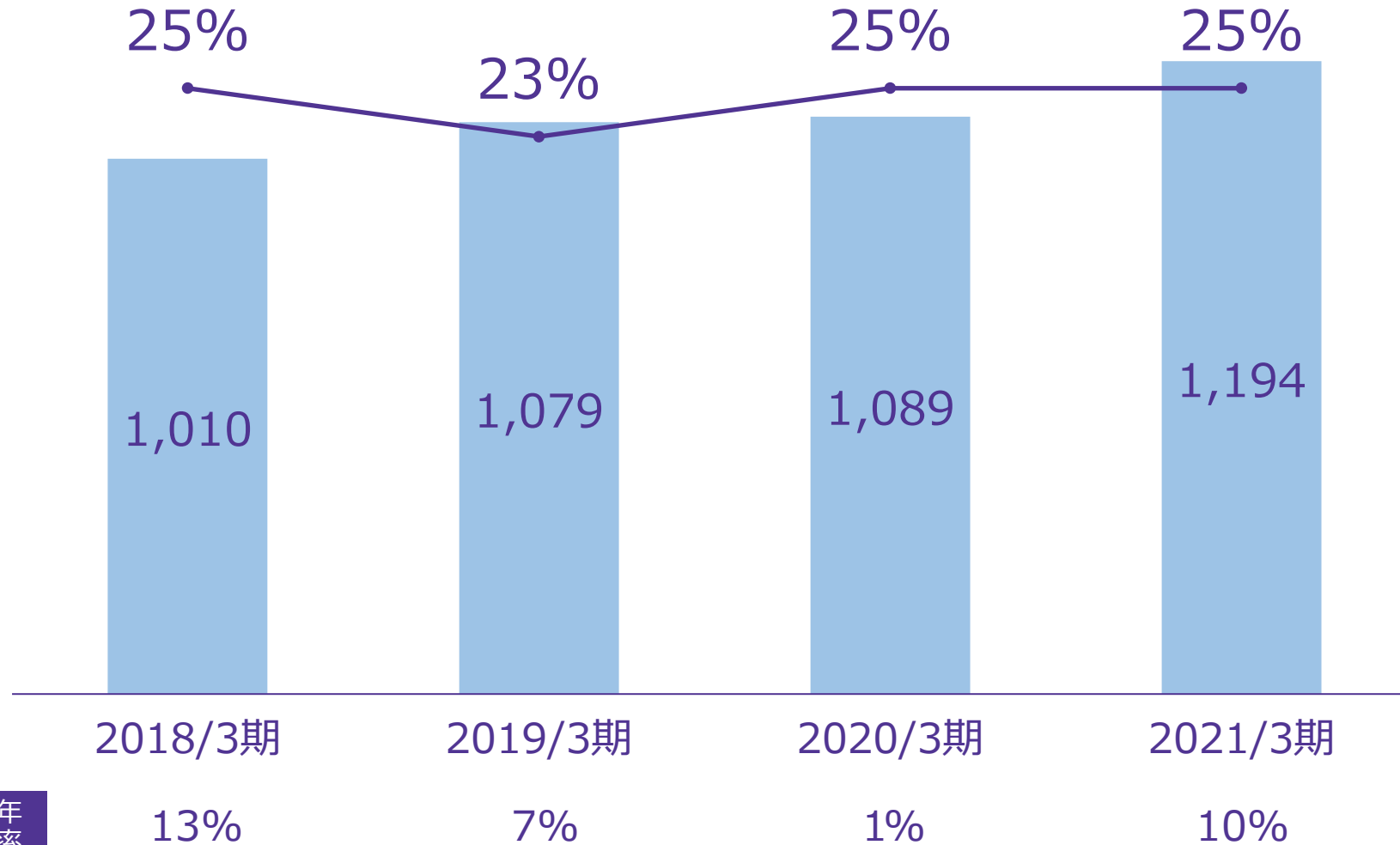
地域	国名	2018/3期		2019/3期		2020/3期		2021/3期		
		売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	対前年増減額
日本		1,324	32.7%	1,276	27.8%	1,550	34.9%	1,639	34.6%	+89
海外		2,724	67.3%	3,318	72.2%	2,886	65.1%	3,099	65.4%	+212
	北米	955	23.6%	991	21.6%	996	22.5%	1,389	29.3%	+392
	アジア	1,505	37.2%	2,046	44.5%	1,634	36.8%	1,440	30.4%	▲194
	中国	725	17.9%	1,113	24.2%	702	15.8%	595	12.6%	▲106
	台湾	155	3.8%	211	4.6%	371	8.4%	305	6.5%	▲65
	韓国	508	12.6%	567	12.3%	435	9.8%	433	9.2%	▲1
	その他	115	2.9%	153	3.4%	125	2.8%	104	2.1%	▲20
	欧州	96	2.4%	128	2.8%	92	2.1%	133	2.8%	+41
	中南米	61	1.5%	60	1.3%	62	1.4%	41	0.9%	▲20
	その他	106	2.6%	92	2.0%	99	2.3%	93	2.0%	▲6
合計		4,049	100.0%	4,594	100.0%	4,436	100.0%	4,739	100.0%	+302

✓ 北米
自動車生産ライン向け、一般製造業・流通業向けがけん引

✓ アジア
エレクトロニクス向けが減少

(億円)

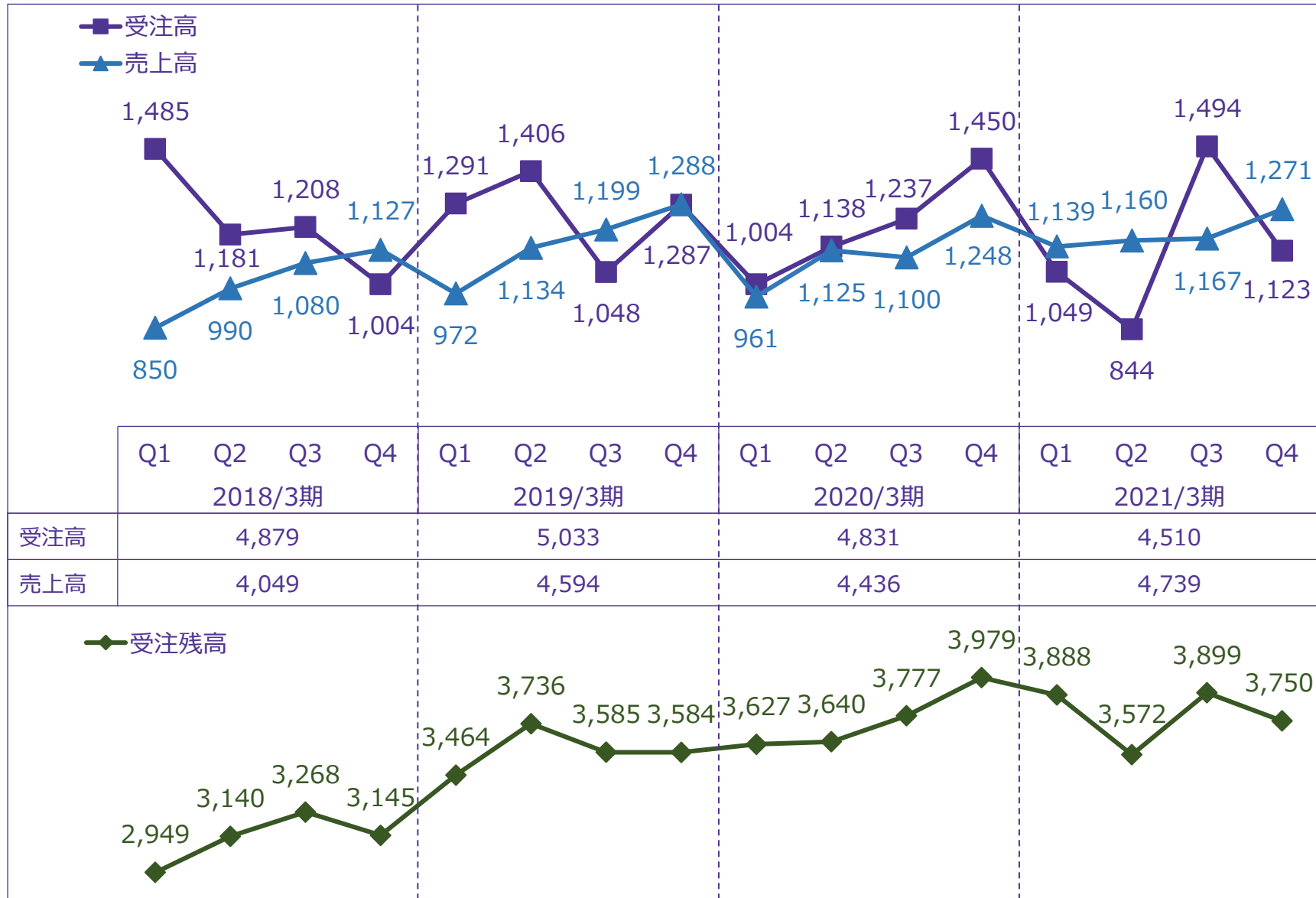
■ サービス売上高 ● 対売上高比率



対前年
成長率

受注高・売上高の四半期ごと、受注残高の推移

(億円)



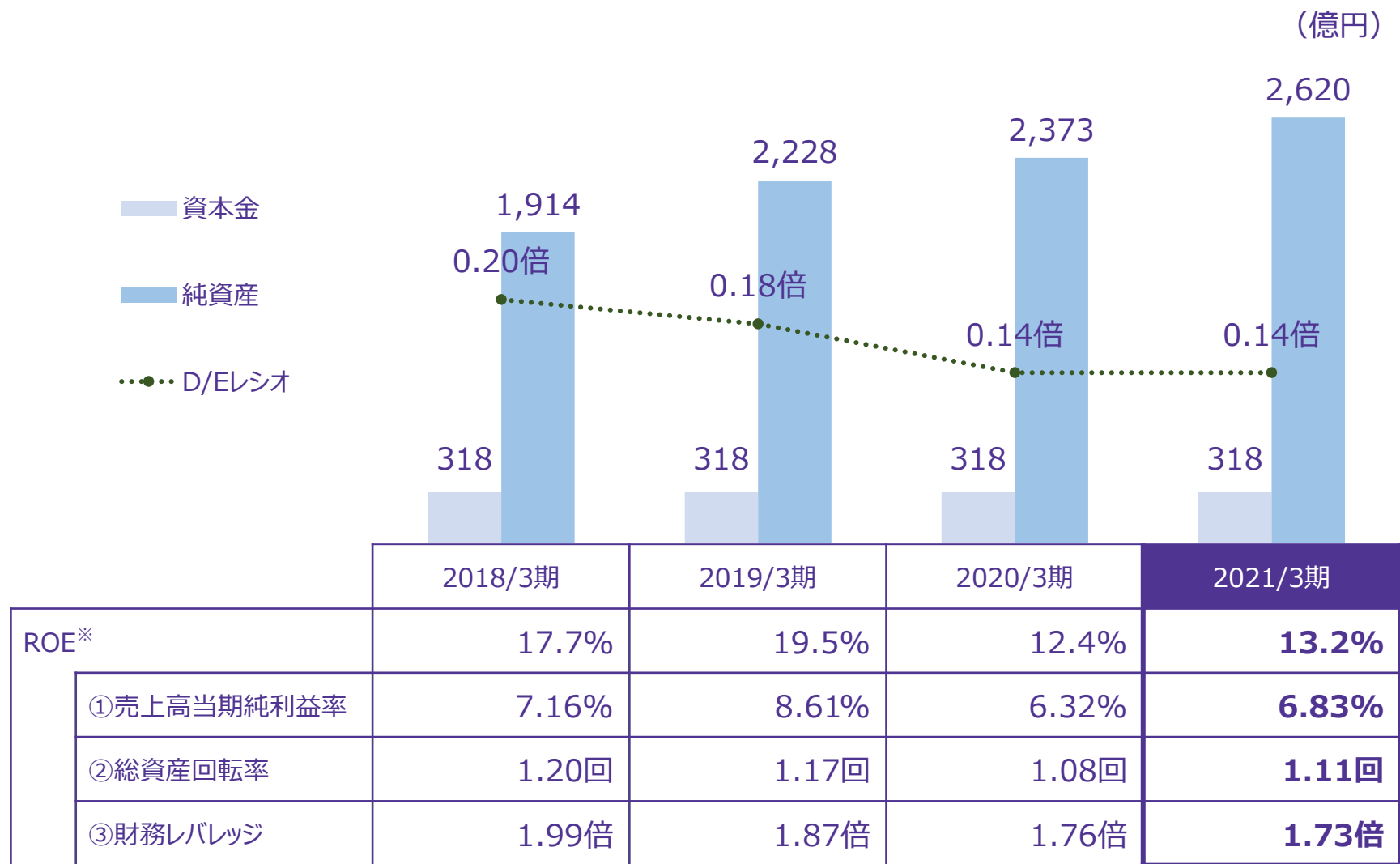
✓ 2022/3期 (予想)
 受注高 : 5,200億円
 売上高 : 5,000億円

有利子負債、固定費、従業員の状態（連結）

（億円）

		2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	対前年 増減額
	短期	199	194	117	155	+37
	長期	180	205	216	196	▲20
有利子負債合計		379	400	334	351	+17
D/Eレシオ※		0.20倍	0.18倍	0.14倍	0.14倍	—
固定費		1,077	1,193	1,176	1,174	▲1
	人件費	730	768	802	831	+28
期末従業員数		9,193人	9,857人	10,863人	11,697人	+834人
	内、海外	5,936人	6,459人	7,312人	8,045人	+733人

※ D/Eレシオ=有利子負債÷自己資本（期末）



✓ 純資産：順調な伸び

✓ D/Eレシオ：0.2倍を切る好水準

✓ ROE：中計目標の「10%以上」を維持

※ ROE = 当期純利益 ÷ 自己資本（期首・期末平均） × 100

$$= \text{①売上高当期純利益率} \times \text{②総資産回転率} \times \text{③財務レバレッジ} = \frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{総資産}} \times \frac{\text{総資産}}{\text{自己資本}}$$

目次へ

業績見通し



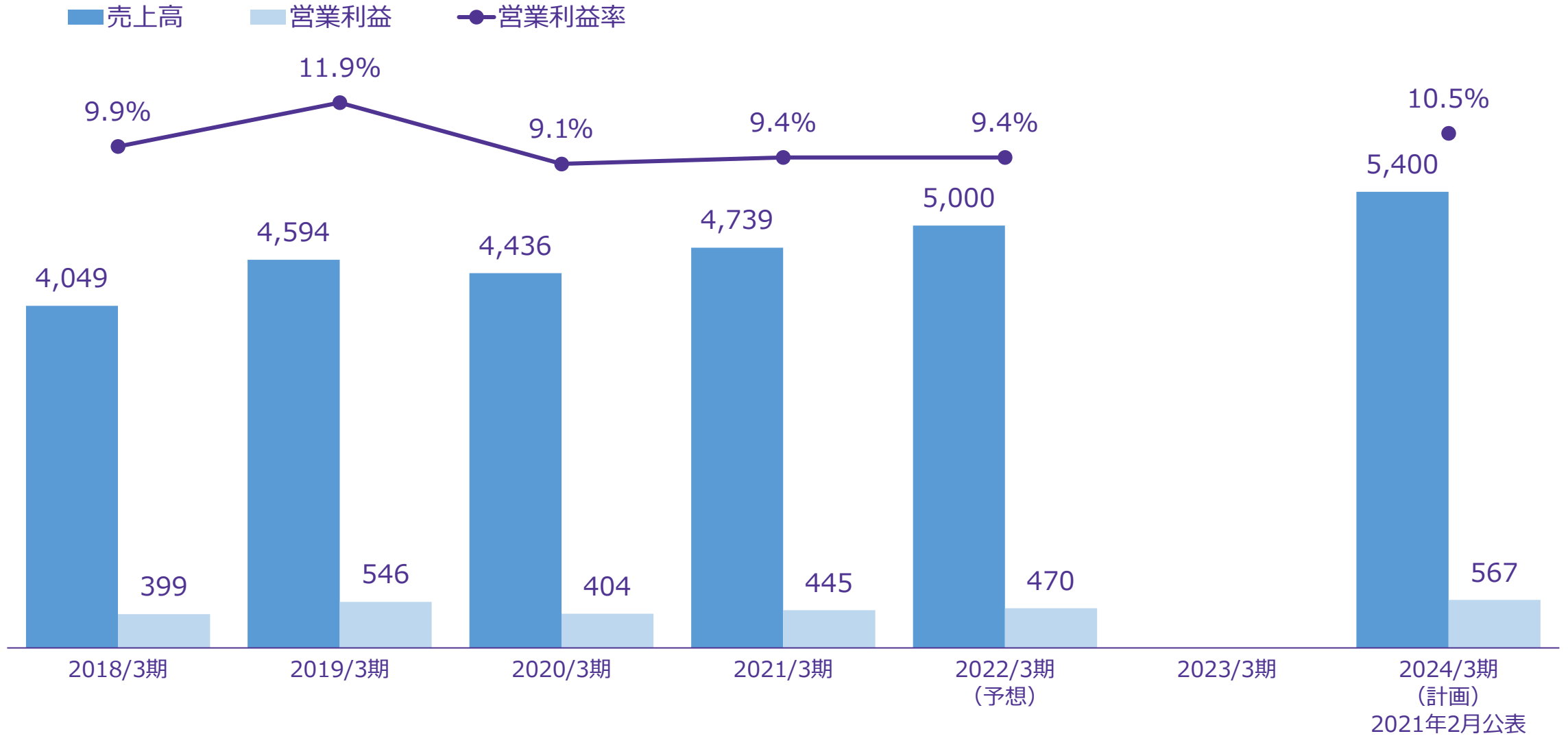
2022年3月期 業績予想（連結）

DAIFUKU

16

(億円)

	2021/3期 上期	2022/3期			2021/3期 通期	2022/3期		
		上期予想	増減額	増減率		通期予想	増減額	増減率
受注高	1,893	2,900	+1,006	+53.2%	4,510	5,200	+689	+15.3%
売上高	2,300	2,400	+99	+4.3%	4,739	5,000	+260	+5.5%
営業利益	196	205	+8	+4.2%	445	470	+24	+5.5%
経常利益	203	211	+7	+3.7%	458	479	+20	+4.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	147	150	+2	+1.8%	323	340	+16	+5.0%
1株当たり当期純利益	116.98円	119.08円	+2.10円	—	257.13円	269.91円	+12.78円	—

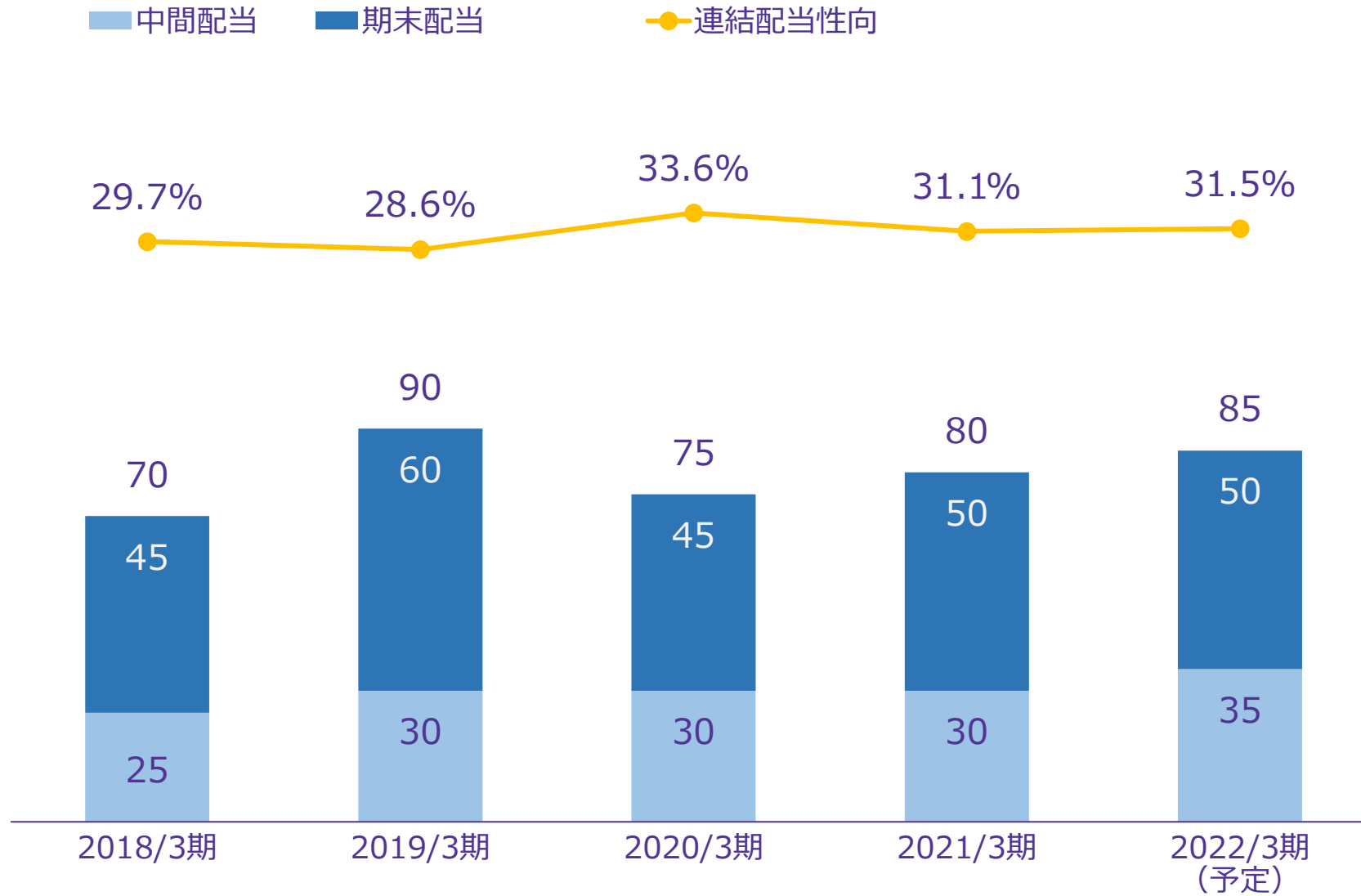


2021年2月公表

中期
経営
計画

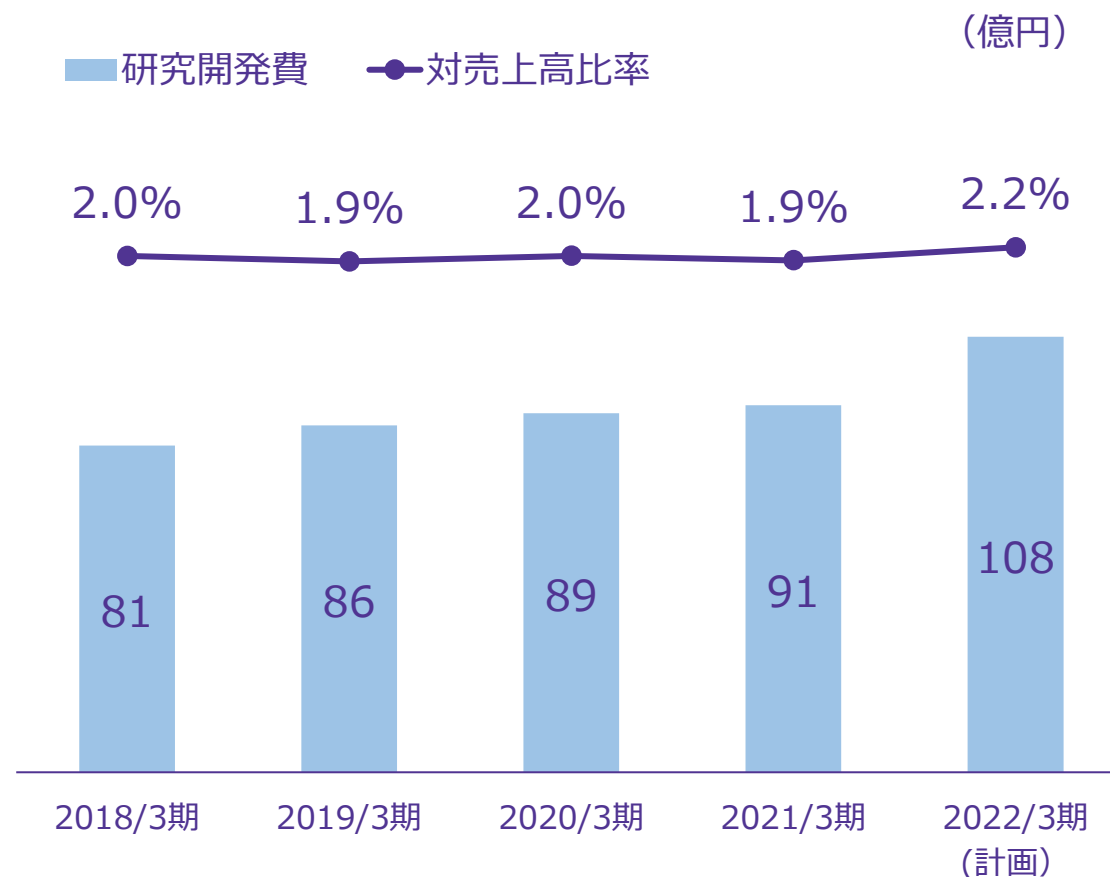
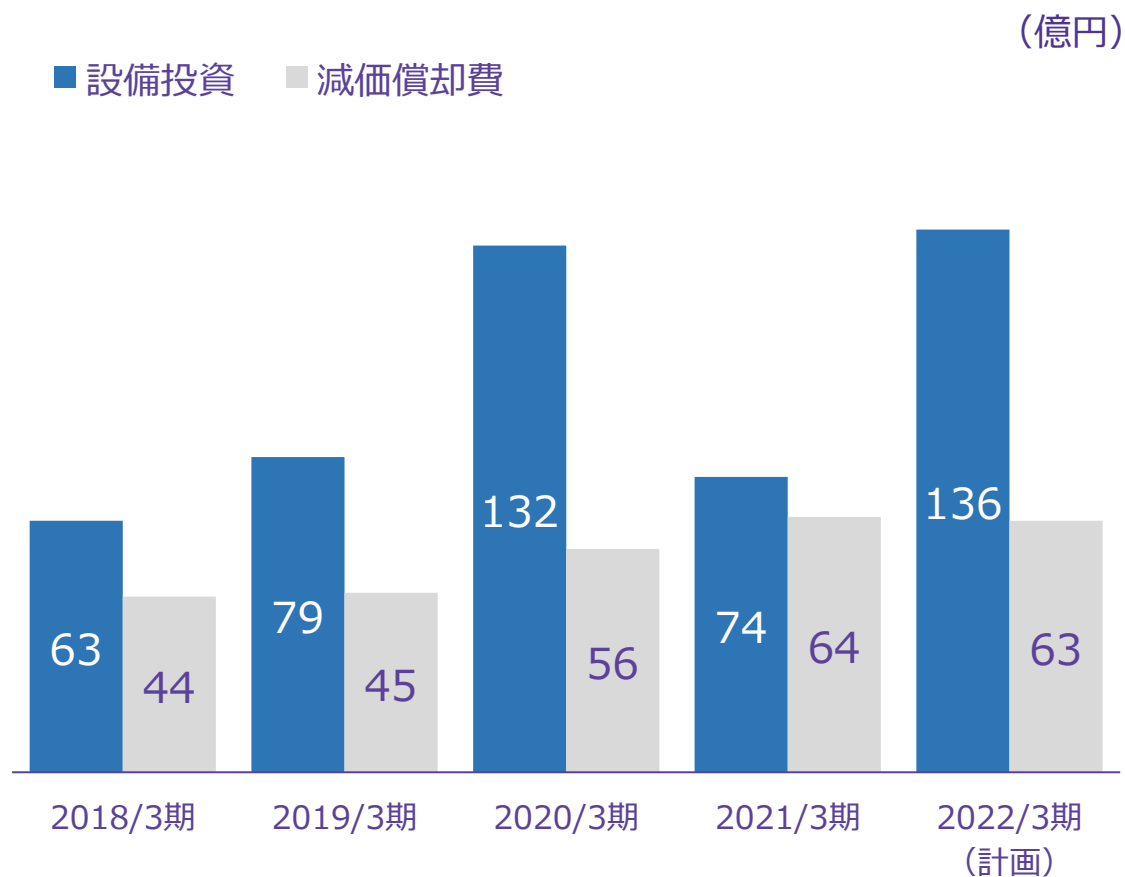


(円)



- ✓ 連結配当性向は毎年度おおむね30%を継続。前中計2018/3期～2021/3期の4カ年平均で30.8%

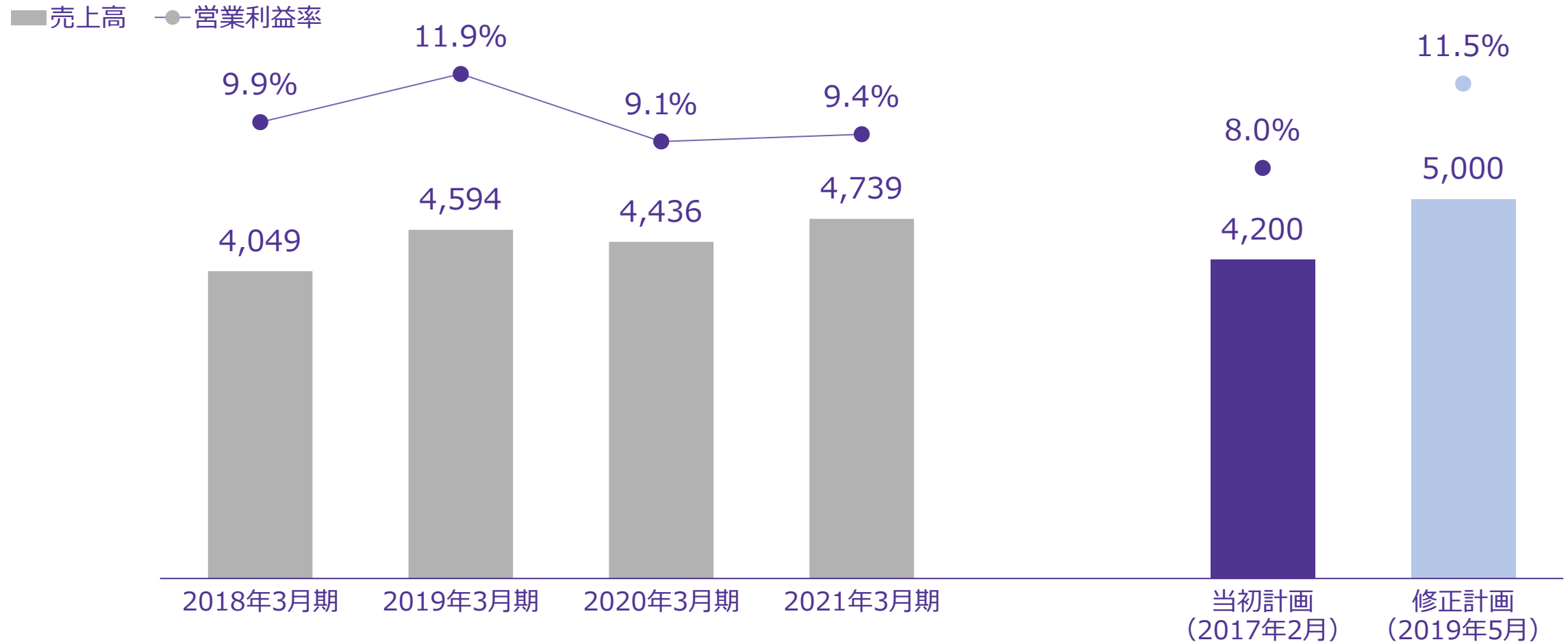
- ✓ 当期はダイフク・北米の各工場生産設備の維持・更新などに投資
- ✓ 減価償却費はおおむね同水準で推移



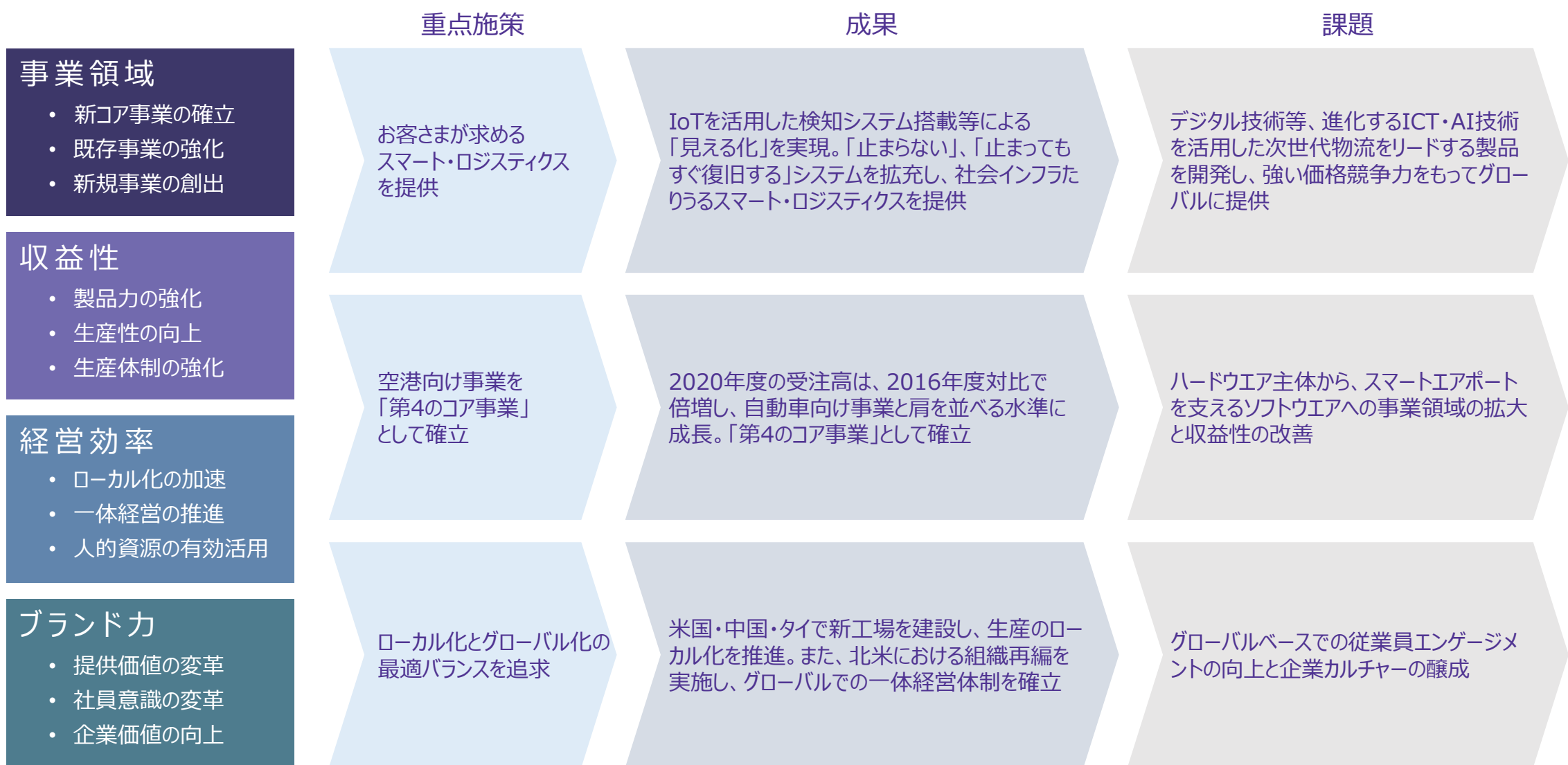
目次へ

中期経営計画について





ROE	17.7%	19.5%	12.4%	13.2%	連結配当性向 4期平均 30.8%	10%以上	10%以上
連結配当性向	29.7%	28.6%	33.6%	31.1%		30%	30%

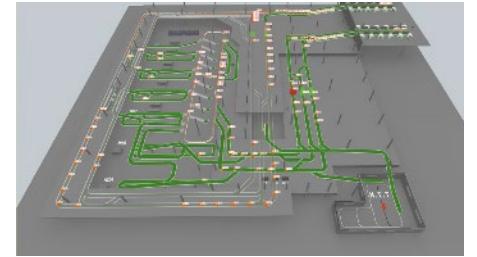


重点施策

お客さまが求める
スマート・ロジスティクスを
提供

3Dソフトウェア「Sym3」をグループで展開

モノを作らなくても開発・検証が可能となり、現場にいなくても状況が把握でき、蓄積されたデータからの予知・予防も行えます。開発から保全まであらゆるプロセスにおいて、品質向上・時間短縮を可能にしました。



空港向け事業を
「第4のコア事業」
として確立

セルフ手荷物チェックインシステムを日本航空様へ納入（写真：羽田空港）

搭乗者自身が画面の表示に従い、自らの操作で手荷物を預けることが可能で、有人チェックインカウンターでの複数の手続きによる待ち時間を大幅に削減できることから、近年、世界の多くの空港が導入を進めています。



ローカル化とグローバル化の
最適バランスを追求

米国Wynright社の新工場を建設

コンベヤ生産と工作の2工場を統合し、従来機種の新規生産に加え、日本から輸入している主力機種の現地生産を手掛けています。新工場の生産能力を従来比1.5倍に拡大したことで、好調な受注を支えています。



「ダイフク環境ビジョン2050」を策定

持続可能な社会の実現に向け、従来の「ダイフク環境ビジョン」を全面的に見直しました。当社グループは2050年に「マテリアルハンドリングシステムが環境負荷ゼロで動く世界を目指す」を掲げ、2030年までの重点領域と各目標を設定しています。



● 期間（2021年4月～2024年3月）

前中期経営計画の期間は4カ年としたが、当社を取り巻く社会環境・事業環境の激しい変化に機動的に対応するため、本中期経営計画「Value Transformation 2023」の期間は3カ年とする。

● コンセプト

1. DX²による提供価値の変革

DX²（DX スクエア） = Digital Transformation x Daifuku Transformation

DX（Digital Transformation）を推進するとともに、ダイフクグループ自身の変革（Daifuku Transformation）に取り組み、お客さまをはじめとするステークホルダーに対する提供価値を変革していく。

2. ニューノーマル下（新常態）における新たな価値創造

ニューノーマルの環境下、前例にとらわれない柔軟で創造性豊かな発想力と既存の枠組みを変革していく実行力により、新たな価値創造が求められる社会においてさらなる飛躍を目指す。

3. 持続可能な社会の実現に向けて

ESG（環境・社会・ガバナンス）やサステナビリティ（持続可能性）などへの取り組み推進の観点から、ダイフクグループでは、中期経営計画とサステナビリティアクションプラン*を経営戦略の両輪と位置付け、それらの実行を通してSDGs（国連の持続可能な開発目標）の達成に貢献していく。

*3カ年の行動計画「サステナビリティアクションプラン」を2021年4月に公表

「Value Transformation 2023」の詳細はウェブサイトをご覧ください。

www.daifuku.com/jp/ir/policy/plan

現状（背景となる外的・内的要因）

4つのテーマと事業戦略

市場環境

eコマースのグローバルでの拡大
自動化ニーズの多様化

事業領域

1. グローバル化の加速
グローバル市場への戦略的投資
2. 既存事業の強化
次世代ビジネスモデルの創出
3. 新規領域の創出
有望な新規領域への投資

事業環境

DXの進展
新興競合企業の台頭

収益性

1. 製品力の強化
先端技術活用による提供価値の変革
2. 生産性の向上
グローバルベースでの価格競争力の強化
3. 生産体制の強化
デジタル化によるものづくり改革の推進

経営環境

M&Aによる海外グループ会社の増加
アナログ業務の見直しとデジタル化の加速

経営基盤

1. グループ経営の再構築
グループガバナンスの強化
2. 業務運営の変革
顧客志向での業務の効率化・付加価値向上
3. 人事制度の改革
多様な人財マネジメント制度の採用

社会環境

ステークホルダー・エンゲージメントの向上
事業活動を通じた社会的責任の遂行

ブランド

1. 提供価値の変革
TOP*イノベーションでスマート・ロジスティクスを提供
2. 社会価値の創出
社会インフラを担う企業として仕組みの強化
3. 社員意識の変革
グローバルベースでの企業カルチャーの醸成

*TOP : Time, Occasion, Place

DAIFUKU

Always an Edge Ahead

将来の見通しに関する注意事項

本資料に記載されている将来の業績に関する目標、信念、計画等は、過去の事実ではなく、最新の情報から判断した経営陣の想定や信念に基づく事業見通しであり、潜在的なリスクや不確定要素を含んでいます。実際の業績は、さまざまな重要要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要要素としては、1) 当社グループの経営環境における消費者動向および経済情勢、2) 米ドルその他の通貨建ての売上・資産・負債に対する円為替レートの影響、3) コスト上昇や販売の抑制につながる安全その他に関する法令等の規制強化、4) 災害・戦争・テロ・ストライキ・疾病等の影響などが含まれます。なお、当社グループの業績に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。